

## 屋久島生態系モニタリング

愛子岳東側斜面と国割岳西側斜面における植生の比較 (平成13年度調査)

・標高200m地点の比較  
 各階層における樹高はほとんど同じであるが、方風高木層と林床層の植率は、愛子岳東側斜面の風が相対的に高いことによるものと考えられる。樹種については、愛子岳東側斜面では高木層にスダジイの他にオレノキ、トキワガキ、アデクなどが出現するが、国割岳西側斜面にはミナチバなどない。両方に共通して出現する層・低木層に多く出現している。低木層については、愛子岳東側斜面はタイミンチバナ、ヒサカキ、サザンカ、ヒサカキ、ヤブニッケイが多いのに対し、国割岳西側斜面は、愛子岳東側斜面で64種と少ない。

## 「永田岳登山道周辺植生回復事業」 検討委員会開催

鹿之沢小屋から永田岳東側麓鞍部の登山道周辺において、登山者等の入り込み起因する植生の衰退が数年前より見られ始めたことから、植生回復事業の具体的手法を図るための検討委員会を開きました。

検討委員会は、鹿児島国際大学吉良教授を座長に、鹿児島大学下川教授、屋久島環境共生企画太田代表、屋久島野生植物研究所主宰大山先生を委員とし、またオプザーバーとして環境省屋久島自然保護官事務所、鹿児島県観光課を交え、日本林業技術協会を事務局として開催しました。  
 この事業は、登山道及びその周辺の植生・土壌が登山者の踏み付けによって消失・崩壊しているため、この回復と、植生・土壌・森林の保全を目的に行われます。そのため登山の快適性・利便性・安全性が環境省の補助金で実施する公園事業の登山道整備とは性格が異なります。  
 各出席者は専門的な立場から活発な意見交換を行い、最後に「人為的対策は最小限と

し出来る限り自然を活かした植生回復事業を実施した方が良い」との方向性が示され、この考え方に最も適した具体的な工事・工法を取り入れた報告書が作成されます。  
 また本事業は来年度以降、この報告書に基づき、各関係機関と調整しながら数年かけて行うこととなります。



## 屋久島の植物



タマザキ ヤマビワソウ  
いわたばこ科

琉球以南にあるヤマビワソウの変種で、大隅半島以南に分布する半低木状の多年草。高さ40cmほどで葉は上部に集まり、裏面には褐色の毛が多い。一〜二月に葉の付け根に白い小花を咲かせ、白っぽい透き通る感じの果実をつける。

## 第3回屋久島山岳部 利用対策協議会開催

一月十四日、屋久島環境文化センターにおいて、平成十五年度第三回屋久島山岳部利用対策協議会が開催され、二つの議題について協議されました。

## 7年ぶり大雪 ランド・雲水峡閉鎖

今年一月の屋久島は例年になく寒い日が続き、中旬から下旬にかけて七年ぶりの大雪になりました。また、この積雪の影響で県道白谷雲水峡宮之浦線、屋久島公園安房線は約一週間通行止めになり、白谷雲水峡とヤクスギランドは一時閉鎖しました。  
 積雪は白谷雲水峡で四十〜六十cm、ヤクスギランドで六十cm〜一mにも達し、営業再開にあたっては歩道の雪かき

や雪の重みによる倒木などの処理を行わなければならない、管理人や町、保全センター職員など人海戦術で除雪を行いました。

これからますます厳しい冬の時季です。凍結や積雪による県道の通行止め、ランド・雲水峡の閉鎖も考えられます。交通規制等を確認の上、十分に注意し、十分な装備で美しい雪の屋久島原生林をお楽しみ下さい。また、通常よりも時間がかかりますのでスケジュールは余裕をもったようにして下さい。

まず、屋久島の登山客等の増加に伴い、山岳部の自然環境への影響が大きく、緊急に検討されるべき課題として、尿処理、歩道整備、避難小屋の管理などが挙げられることから、利用者に費用負担を求め、協力金制度の導入について話し合いました。その結果、山岳部利用対策協議会にワーキンググループを設置し、協力金の目的、使途、徴収金額、対象者、方法、利用者への周知方法などの具体的な案を検討することで確認されました。  
 次に、山岳部利用対策協議会が作った屋久島での登山のルールや注意をまとめたマナーガイドが、現在のものは全般にデザインがすっきりせずわかりにくい点もあるという指摘があり、改訂作業部会を設置し、マナービデオや各種ガイドブック等と内容の確認を行い、マナーガイド改訂版を編集することに決まりました。



## 洋上アルプス「屋久島の植物」掲載 (51~100号)

洋上アルプスで毎号紹介している屋久島の植物を一覧表にしました。今月は51~100号まで掲載します。  
皆さんはいくつご存じですか？ (1~50号掲載分については105号をご覧ください)

No.	和名	科名	備考
51	フトモモ	ふともも	屋久島を分布の北限
52	ツルアジサイ	ゆきのした	屋久島が分布の南限 つる性で岩や田の樹木をはい上がる
53	シマサクラガンピ	じんちょうげ	鹿児島県本土、屋久島の数ヶ所で見られる落葉低木
54	ハマビワ	くすのき	本州以南に分布 葉の裏に黄褐色の毛を多くつける
55	ヤッコソウ	やっこそう	四国以南から琉球にかけて分布する
56	ヤクシマツチトリモチ	つちとりもち	大隅半島南部にも分布している
57	トクサラン	らん	九州南部以南に分布する多年草
58	マンリョウ	やぶこうじ	本州以南に分布
59	サツマサンキライ	ゆり	九州南部以南に分布する常緑のつる性低木
60	リュウキュウイチゴ	ばら	種子、屋久を分布の北限
61	ヤマザクラ	ばら	宮城、新潟県以西の本州、四国、九州に広く分布
62	ホウロクイチゴ	ばら	本州南部以南に分布
63	フタリスズカ	せんりょう	屋久島を分布の南限
64	モウセンゴケ	もうせんごけ	全国に分布し、屋久島が分布の南限
65	ヒメウマノアシガタ	きんぼうげ	屋久島の固有変種 標高1600~1700mの高層湿原に生育
66	ヤクシマコオトギリ	おとぎりそう	屋久島の固有変種、ナガサキオトギリの矮小品
67	ヤクシマリンドウ	りんどう	屋久島の固有種
68	ヤクシマタツナミソウ	しそ	屋久島の固有変種、別名ヤクシマナミキ
69	オニカンアオイ	うまのすずくさ	屋久島の固有種 花は地面に接して咲く
70	ヤクシマノギク	きく	屋久島の固有種
71	シシアクチ	やぶこうじ	屋久島、種子島、琉球に分布
72	アクシバモドキ	つつじ	屋久島の固有種、落葉低木
73	マルバフユイチゴ	ばら	本州以南に分布
74	コケスミレ	すみれ	屋久島の固有変種 ツボスミレの変種
75	マムシグサ	さといも	本州西部、四国店九州に分布
76	ツクバネソウ	ゆり	全国に分布
77	ヤクシマガンピ	じんちょうげ	鹿児島県本土に数ヶ所と屋久島だけに分布する
78	ゲンバイヒルガオ	ひるがお	四国以南に分布 海岸の砂地に生える多年草
79	イッスンキンカ	きく	屋久島固有の高山植物
80	ヤクシマダイヤモンドソウ	ゆきのした	屋久島の固有変種、ウチワダイヤモンドソウ及びダイヤモンドソウの矮小品種
81	シラタマカズラ	あかね	紀伊半島以南に分布するつる性常緑高木
82	サツマイナモリ	あかね	千葉県以西に分布する多年草
83	タイミンタチバナ	やぶこうじ	本州以南に分布
84	ヒメヒサカキ	つばき	屋久島の固有種
85	ヒメアリドオン	あかね	関東地方以西に分布 アリドオンの変種
86	キバナノコマノツメ	すみれ	屋久島が分布の南限 1800mほどの高山の頂上付近に生育
87	ギンリョウソウ	いちやくそう	全国に分布する腐生植物
88	ヤクシマショウマ	ゆきのした	屋久島の固有変種、アカショウマの変種
89	ヤクシマヒロハノテンナンショウ	さといも	屋久島の固有変種
90	ヤンバルセンニンソウ	きんぼうげ	種子、屋久を分布の北限
91	ヤクシマツルリンドウ	りんどう	屋久島の固有変種
92	アマクサギ	くまつづら	九州南部以南に分布 屋久島でクサギは未確認
93	タシロリミノキ	あかね	屋久島付近が分布の北限
94	ヒメユズリハ	どうだいぐさ	関東以西に分布
95	ギョボク	ふうちょうそう	大隅、薩摩、琉球地方に分布
96	アコウ	くわ	紀伊半島以西に分布する常緑高木で気根を垂らす
97	ヒカゲツツジ	つつじ	屋久島が分布の南限である常緑低木
98	ヤクシマツリガネツツジ	つつじ	屋久島の固有種、別名ヤクシマヨウラク
99	ヒメコナスビ	さくらそう	屋久島の固有変種 コナスビの矮小種
100	ヤクシマホツツジ	つつじ	本州西部や四国にも産する、屋久島を分布の南限